

☆作業日あれこれ

新年を迎えて初めての定例作業日、前日の20cmの積雪が林床一面を覆っている状態です。普通だと積雪があるのに作業なんて…と思われるのですが、そこは遊林会。次から次に参加者がやって来ます。クマは午後の作業が雨喜びならぬ雪見酒になるのかと不安と期待をしながら、ふるさとより送られた焼酎を持参しての参加です。



夜の主演達です

この日の観察会はブンちゃんですが、計画していた冬の植物が積雪のためにできなくなり、急遽動物の足跡の話です。ファイヤークルの前で足跡などのイラストを示して解説です。一列歩行はキツネで、前足の後に反対側の後ろの足跡を重ねて歩くので一列に見えます。タヌキは二列の足跡になるのですが、この歩き方をブンちゃんは地面に四つ足になって説明していました。次は、ピョン・ピョン・パーで表現される前後に二つ付いた前足の後に後ろ足がパーの形で着く分かり易いウサギの足跡です。ウサギの話になると大先生の登板、生徒を引率してのウサギ狩りの話に振ると「あれでは捕まらん。針金を使った罠で、ウサギの通り道さえ知っておれば大抵捕まえらる。膀胱を傷付くようにせんと臭いが付いて食えん」と解説されます。クマの小学校の廊下には、雪の中で生徒がウサギ狩りをした額入り写真が誇らしげに掲げられていましたが、さすがにが紅顔の美少年であった頃にはそのような行事はありませんでした。このウサギですが、冬には白色に毛皮が変化するというのが一般常識になっているように思います。しかし、この地域のウサギは冬毛も茶色で、白くなるのは日本海側に生息するトリルウサギという種類であること、絵本に出てきたりペットとして飼われているのはヨーロッパ原産の穴ウサギを改良したウサギで、日本にいるウサギは巣穴を掘らないことと人には慣れにくいことなどを付け加えました。座学の後、草原広場に出かけて雪上の足跡の観察、キツネやウサギの足跡を見つけることができました。人の目に付かない時間に野生動物たちがちゃんと生息している痕跡、アニマル・トラッキングを確認できるのは雪の森の楽

しみです。観察会後には、作業に入る前に七草がゆをいただき、今年の作業の安全と健康を皆で祈願をいたしました。

この日の作業には37人と結構な人数が集まったのですが、急な積雪のため当初予定していた6種の作業を4種に縮小・変更しての実施です。①林内を巡りながら雪で折れた木や木の整理作業、②薪割り作業、③草機械刈り、④昼食班の4つです。雪害整理班は2班に分かれて森をパトロールしましたが、今回の雪は粉雪のため被害は少なかったようです。それでも曲がった木などを救い出したりすることが必要でした。薪割りは干枯れの丸太をひたすら薪割機で割ります。できあがった薪は久しぶりにお見えの定番のない陶芸家によって丁寧に井桁積みになされました。入口エリアでは草の機械刈り作業、従事者は草刈名人独りのみ。黙々と作業していただきましたが積雪のため効率悪く途中で中止となりました。



私がタッキーです

クマなどは積雪があるとは言え、やり残した木退治が気になり、なかなか踏ん切りが付かなかったのですが、マルが一言、「午後の作業は積雪のため中止します！」と宣言をいたしました。(マル注；積雪の中での作業はみんな午前中だけで結構疲れたのです！) こうなると堂々とお昼の延長戦になるわけですが、ストーブの周りに残ったのは、クマと定番のない陶芸家、飲まないが席に付き合った青年部長などだけで氣勢が上がらない雪見酒の宴でありました。

クマなどは積雪があるとは言え、やり残した木退治が気になり、なかなか踏ん切りが付かなかったのですが、マルが一言、「午後の作業は積雪のため中止します！」と宣言をいたしました。

(マル注；積雪の中での作業はみんな午前中だけで結構疲れたのです！) こうなると堂々とお昼の延長戦になるわけですが、ストーブの周りに残ったのは、クマと定番のない陶芸家、飲まないが席に付き合った青年部長などだけで氣勢が上がらない雪見酒の宴でありました。

2月23日(水曜日) 週日活動 森の居酒屋は2月9日 午後7時頃～

2月12日(第2土曜日) 9時～(遅刻可)

主 催 者 : 遊 林 会

連絡先(遊林会事務局): 滋賀県 東近江市 河辺いきものの森 Tel 0748-20-5211 Fax 0748-20-5210

URL: <http://www.yurinkai.org/>

E-mail: ikimono@e-omi.ne.jp

森のブログは「かわべえフクロ」で検索!

寒い日が続く最中の第4水曜日は、参加者の出足も鈍く男性ばかり8人のみ。スタッフと合わせても13人という少人数でしたが、顔ぶれはベテランばかり、予定通りの作業にかかることにしました。前回の作業日までで、今シーズン被害にあったナ枯れ25本の伐採、玉切り、搬出、薪割り、枝葉のチップ処理、チップの敷き慣らしという一連の作業を終えることができたので(5ヶ月かかりました)、本日からようやく本来やるべき里山保全作業にかかれます。本日から萌芽更新作業です。放置され高木となったドングリの木たちを伐採し、その切り株から生えてくるひこばえを育てて次の世代を担う若い林に仕立てていくための作業です。今回実施する区域には約20本前後のナ類があり、これらを皆伐します。この区域の向かい側の林も2006年の冬に皆伐しましたが、今では切り株から育ったひこばえが十分に育ち、人がまったく入れないほどの若いドングリの木で混み合っているのです、こちらはこの冬の間に思い切って間引こうと考えています。

さて、この日は人数が少ないので3本も伐れば上等と考えていたのですが、ベテラン揃いというのは伊達でなく終わってみれば6本も伐ることができました。もちろん伐採といっても伐り倒すだけで終わりではなく、玉切りした後は目的に応じて仕分けし、運搬する作業が必要で、伐採後の方にはるかに手間がかかるのです。にも関わらず6本伐採…さすがです。一方昼食班は、愛子さんとブンちゃんの女性スタッフ2名のみしかいなかったのが大変だったそうです。しかし二人の大奮闘の甲斐あって、予定していたつみれ入りみぞれ汁とお手製ハンバーガーその他のご馳走を用意して頂き、皆でおいしく戴きました。

☆1月の木ままクラブ

気軽に気ままに木曜日に活動する木ままクラブ。1月は2回の活動を行いました。
1/13 9人 ナ枯れの木を伐採し玉切りた大量の丸太を薪割り機でひたすら割る作業です。16時までかかって全部割ることができました。
1/20 12人 ナ枯れ伐採木や中学生の体験学習で伐採した木の枝葉をチップにかけ、大量の枝葉をすべてチップ化でき、早速歩道に敷き詰めました。2月は3日、17日が活動日です。

☆河辺いきものの森スタッフルーム情報

去年の年末から雪が降り出し、元旦には森は真っ白に。2011年は真っ白からスタートしました!! 今年も全国的にも雪が多く、森でも降っては溶け…を繰り返し、森のどこかには雪が残っているという状況でした。雪の降る中でも、予定していた小学校2校は予定を変更することなく、雪の森で活動を行いました。子どもたちは雪だろうと関係なく、むしろテンションは高めで、森の中を走り回り楽しんでいました。

さて2月に入ると、団体の受け入れは減るのですが、だからといってスタッフが暇になるわけではありません。刊行図鑑の再版のための手直し、セブンイレブン等の助成金報告書のメ切などの事務仕事や、来年度の事業計画・遊林会の未来にむけての話し合いなどがたくさんあります。確定している事業計画だけでも県の森林環境やまのこ学習事業、市のやまの子キャンプ事業、森の新規事業などたくさんあります。また、今年度新たにチャレンジした事業（絵本づくり、カトラリーづくり、小さい子どもを持つ親子向け事業）をこれから続けていくのか、続けるのであれば、どこをどのように変えてよりよい事業にしていけるのか、などの話し合いもあります。その他、修学旅行の受け入れや、他団体や他施設との連携をどうするのか、話合う項目は山積み、です。

そんななか、最近のスタッフの話題は窓から見える鳥達です。冬には新しく薪を割ったり、古い薪を移動させたりする仕事があり、スタッフルームからはそんな薪の様子が見られるのですが、その薪から出てくる小さな虫を狙って様々な鳥が来ます。よく見られるのはお腹がオレンジのジョウビタキ。タッキーという愛称でスタッフ間では人気者です。そこにタッキーよりもひとまわり大きいモズが!さすがに、タッキーは逃げて遠くから様子を伺います。モズがいなくなると、次はシロハラ、そしてまたタッキーが順にやってきます。するとまたモズが来て逃げていくタッキー。モズがいなくなると今度はリビタキがやってきたり、またまたタッキーがやってきたり。見ていて飽きませんでした。この時期はパノソンの前です仕事が多いのですが、窓の外に目を向けると、森らしい光景がたくさん広がっていて、おとさせてくれます。その一方で、窓一枚はさんで繰り広げられる自然界の厳しさにも思いを馳せるスタッフです。

☆大人のためのカトラリーづくり

今年初の企画、大人のためのカトラリーづくりのイベントですが、遠くからは岐阜や三重など県外からの参加がありました。第1回目は森の材を使っているバターナイフを作りました。初めての企画でしたが、参加者同士で和気あいあいと楽しめるイベントとなりました。

☆2月の作業日は…

次回の活動日、建国記念日の翌日なので、リチャーターはお休みですが、遊林会は通常どおり行います! お昼はまだまだ寒い日があるかもしれないので、久しぶりにおでんでも…

容器やコップは数に限りがあります。食器の持参をお願いします!